

2025 年度
教 育 要 項

理学療法学科 第 1 学年



宮崎リハビリテーション学院

授業名	心理学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	2
担当講師	大寺 健一郎（理学療法学科 専任教員）		授業形態	必須/選択
			講義	必須
教科書	・リハベーシック 心理学・臨床心理学 （医歯薬出版）		成績評価 ・筆記試験 100% ・60%以上の点数で合格	
参考書	・生き方支援の心理学（北大路書房）			
授業概要	・本講義では、心理学全般の基本的知見を概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を深めていく。 ・アクティブラーニングを意識し、日々の学習や理学療法の臨床で活用できる心理学的手法を実践する。			
授業目標	・心理学一般の基本的知識の説明ができる。 ・心理学を理学療法の臨床に応用し実践できる。 ・臨床心理学に基づいた心理臨床の概観を理解する。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	CHAPTER 1：心理学・臨床心理学はおもしろい			・随時課題を提示する。 ・予習・復習を行うこと。
2	CHAPTER 2：心理学とは			
3	CHAPTER 3：感覚・知覚・注意・認知			
4	CHAPTER 4：情動・動機付け・パーソナリティ・社会			
5	CHAPTER 5：記憶・学習			
6	CHAPTER 6：言語・概念・思考			
7	CHAPTER 7：発達と知能			
8	CHAPTER 8：臨床心理学とは			
9	CHAPTER 9：防衛機制			
10	CHAPTER 10：心理アセスメント			
11	CHAPTER 11：臨床で用いられる心理検査			
12	CHAPTER 12：臨床心理学の介入方法（行動的）			
13	CHAPTER 13：臨床心理学の介入方法（内面的）			
14	CHAPTER 14：臨床心理学の介入方法（相談的）			
15	単位認定試験			
備考 講義の内容について、定期的に復習すること。復習は最低でも3回行うこと。				
教員の実務経験		理学療法士としての臨床経験 13 年 教育学修士（教育臨床心理） 認定理学療法士（臨床教育）		
実務経験を活かした教育内容		心理学を理学療法の臨床に応用できる形に整理して説明する。また臨床心理学を概観し、その内容を大まかに説明する。		

授業名	倫理学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	15（8）	1
担当講師	三浦 由佳里		授業形態	必須/選択
			講義・グループ 討議	必須
教科書	・教科書の指定はございません。毎回その講義の要点を記したプリントを配布いたします。		成績評価	
参考書	なし		・「討議シート」提出（5 点・合計 4 回） ・遅刻（－1 点） ・「最終レポート」提出（80 点） ・60%以上の点数で合格	
授業概要	・この授業では、医療・福祉専門職に求められている「倫理」を学ぶにあたって、単に「知識として知っている」ということに終わらないよう、臨床現場における重要な倫理的問題について、実際の事例をもとにグループ討議を行い、「自らの力で考えて、答えを見つけていく」能力を身につけることを目指す。 ・その際、規則やルール、自分の意見を押し付けたりするのではなく、当事者を含む様々な立場の意見に耳を傾け、相手の価値観を尊重する。他のメンバーと協力しながら、チームとしての意見を形成する力を養うことに主眼を置く。			
授業目標	(1) ものごとの「あるべき」方向や姿を、学問的に理解し考え出すことができる。 (2) 「患者のため」という善意が独り歩きする「独善」の危険性について理解できる。 (3) 倫理的問題を一人で抱え込まず、「チーム」でアプローチすることができる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	テーマ：「生命・医療倫理」の基本原則 内容：「生命・医療倫理」が誕生した歴史的背景と学問的課題についての講義、及びグループワークを行う。 小目標：「倫理 4 原則」「功利主義」「義務論」等を学ぶ			＊講義中に討議シート No.1 を作成する。
2	テーマ：「患者の自律尊重—自己決定」について 内容：患者自身が自己決定できない場合等の具体的な事例を紹介し、これを基にしたグループ・ワークを行う。			＊講義中に討議シート No.2 を作成する。
3	テーマ：「臨床倫理コンサルテーション」について 内容：患者を巡る倫理問題が発生したとき、それを解決・解消するための手がかりについて解説する。4 分割法の活用			＊講義中に討議シート No.3 を作成する。
4	テーマ「患者の自律尊重—ACP の現状」について 内容：ACP（人生会議）とは何かを考えることで、社会における高齢者医療の問題を身近に感じてもらう。宮崎市が作成している「わたしの思いをつなぐノート」を参考にして在宅医療や地域での看取りについて考える。			＊講義中に討議シート No.4 を作成する。
5	テーマ「個人情報保護及び守秘義務」について 内容：個人情報保護法に基づいた医療現場での個人情報の保護、及び職場での守秘義務について講義。			
6	テーマ：「脳死下臓器移植」について 内容：具体的な事例を提示し、これを基にしたグループ・ワークを行う。			
7	テーマ「リハビリテーション領域における倫理的問題」について 内容：リハビリテーション領域における倫理問題について解説。			
8	内容：まとめ及び「最終レポート作成」			
備考				
教員の実務経験		感染管理認定看護師養成研修「臨床倫理」		
実務経験を活かした教育内容		・生命倫理、・臨床倫理の詳細 ・「臨床倫理コンサルテーション」の実践		

授業名	社会福祉学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	2
担当講師	濱砂 泰典	授業形態		必須/選択
		講義		必須
教科書	・ 社会保障入門 2025 ・ その他 配布資料	成績評価 ・ 終講時の筆記試験 ・ 60 点以上を合格とする		
参考書				
授業概要	・ 医療と福祉及び保健分野は密接に繋がっており、理学療法・作業療法を実施する上で制度の成り立ちや詳細を熟知しておく必要がある。 ・ 社会福祉学は、上記の内容をタイムリーなデータを提示しながら学習を進めることにより実践的な専門職としての資質向上に努める講義内容である。			
授業目標	・ 理学療法士・作業療法士として必要な社会福祉の意義・理念について理解できる。 ・ 社会福祉の歴史及び今後の動向について理解できる。 ・ 社会福祉の法体制・行財政・サービス提供の主体について理解できる。			
授業内容				
回数	内容			課題等
1	社会福祉の概念とその範囲について学ぶ			
2	日本及び欧米の社会福祉の歴史について学ぶ			
3	統計を基にした日本の社会福祉の現況と今後の推移について学ぶ			
4	日本国憲法第 25 条及び福祉六法・八法の成立と概要について学ぶ			
5	日本の社会保障制度の概要と今後の取り組みについて学ぶ			
6	社会福祉基礎構造改革の骨子とねらいについて学ぶ			
7	老人福祉法をはじめとする高齢者福祉施策の現況と課題について学ぶ			
8	介護保険法の成立経緯と概要について学ぶ			
9	介護保険法の概要・知的障害者福祉法の解説及び課題について学ぶ			
10	身体障害者福祉法・児童福祉法の解説及び課題について学ぶ			
11	母子及び寡婦福祉法・生活保護法の解説及び課題について学ぶ			
12	所得保障制度・医療保険制度の解説及び課題について学ぶ			
13	所得保障制度・医療保険制度の解説及び課題について学ぶ			
14	その他の福祉関連法の基礎知識について学ぶ			
15	試 験			
備考				
教員の実務経験		濱砂 泰典（社会医療法人 耕和会）		
実務経験を活かした教育内容		教科書の内容だけでなく、実施の現場で行っている業務内容や調整等を伝え、試験のためだけではなく、就業しても活かせる内容を伝える。		

授業名	教育学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	15（8）	1
担当講師	河原 国男		授業形態	必須/選択
			講義	必須
教科書	・ 配布資料	成績評価		
		・ 期末試験(筆記)		
		・ 平常点：居眠り等により受講態度において、事実上不参加が認められる場合には、各回 10 点減点する。		
		・ 60 点以上を合格とする		
参考書	・ デューイ『民主主義と教育』岩波文庫 ・ 川喜田愛郎『生命・医学・信仰』新地書房			
授業概要	・ 教育は、人に対して行う意図的な行為の一種である。医療福祉従事者の行為のなかに、本人の自覚は無い場合でも、「教育」の要素が含まれている。教育の要素を取り入れることによって、より望ましい医療福祉行為が実現できる場合がある。そのような観点から、基礎的教養としての教育学について講義する。			
授業目標	・ 人間形成とは何か、教育とは何かを基本的に理解できる。 ・ 医療・福祉の行為を部分的に補佐し、基礎づける教育のあり方について認識できる。 ・ 先端的な介護福祉の現場との関連で、理学療法士の役割について理解できる。			
授業内容				
回数	内容			課題等
1	人間形成とは何かを理解するために、“生と形式”に関する根本的問いかけがあることを認識する。1）アリストテレスの習慣づけの所見にふれながら、人間に対する形式づける諸技術が、人間形成の分野で重んじられてきたことを理解する。2）生きた人間を対象にする場合に、その形式づけがどのような基本的な留意事項があるかを、ルソー『エミール』の3種類の教育（自然の教育・事物の教育・人間の教育）等にふれながら認識できるようにする。			
2	環境との関わりを通じてを含めた、人間を形成する諸力のなかで、意図的形成行為として「教育」の位置づけを知る。その専門的機関として「学校」があることを理解する。			
3	教育を限界づけるものとして“自らを形成する力”があることを知る。ソクラテスの「産婆術」という支援の技術について、プラトン対話篇を紹介しながら、理解する。			
4	時間的推移のなかで価値実現をめざす“向上”の概念を知る。そのなかで、心身の病、障害、傷等を負った者がどのように困難な状態に向きあいながら時間的経過のなかで価値実現していくか、そのモデルを認識する。また、その具体的事例に取りあげる。関連して、リハビリテーション概念についてふれる。			
5	教育的態度の諸類型として、支配関係・指導関係を理解する。			

6	教育的態度の諸類型の一つとして、同朋関係理解する。典型的事例として、ソクラテスとその対話者との関係について取りあげ、暫定解を求めて、仮説検証を繰り返す対話的実践の重要性について認識できるようにする。	
7	教育目的の公共性理念について認識するとともに、医療福祉従事者の職業的使命について、その基本を理解する。その上で、医学史家川喜田愛郎氏の所見にふれながら、介護福祉の最前線における理学療法士の役割についてふれる。	
8	期末試験	
備考		
教員の実務経験	宮崎大学教育学部附属小学校長	
実務経験を活かした教育内容	学部教員養成課程における必修科目「教育本質論」の担当、教職大学院必修科目「現代の教育課題と学校の社会的役割」の担当、など。	

授業名	統計学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	西岡 賢祐	授業形態		必須/選択
		授業		必須
教科書	・ すぐできる！リハビリテーション統計	成績評価 ・ 平常点 20%、試験 80% 上記を総合的に評価する。 （欠席－3 点、遅刻－1 点） ・ 60%以上の点数で合格		
参考書	・ Excel で学ぶ統計解析入門			
授業概要	・ 統計学の基礎や、現場で必要となる統計的解析手法について講義する。			
授業目標	・ 統計学の基礎を理解し、説明できる。 ・ 統計学を用いた解析手法を理解し、説明できる。 ・ 実際の事象について統計的解析を用いて理解し説明できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	統計学の基礎			
2	統計解析の使用例			
3	図表の表し方（EXCEL を用いた作図の基礎）			
4	図表の表し方（関数を用いた作図）			
5	標準偏差によるデータ解析			
6	標準偏差を用いた図作成			
7	度数分布によるデータ解析			
8	度数分布を用いた図作成			
9	相関と回帰（相関分析）			
10	相関と回帰（回帰分析）			
11	基準値の基礎と応用			
12	ノンパラメトリック検定（カイ 2 乗検定）			
13	ノンパラメトリック検定の応用			
14	試験			
15	試験の解説			
備考				
教員の実務経験		宮崎大学 工学教育研究部 教授 博士（工学）		
実務経験を活かした教育内容		EXCEL を用いたデータ解析		

授業名	物理学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	秋山 博臣		授業形態	必須/選択
			講義・実験	必須
教科書	・ 医療系のための物理 佐藤幸一・藤城敏幸 著，東京教学社 ・ 適宜，プリントを配布します。		成績評価	
参考書	・ 医療系のための物理 佐藤幸一・藤城敏幸 著，東京教学社		・ 期末試験(筆記)：80～90% ・ 実験レポート：20～10% ・ 60%以上の点数で合格	
授業概要	・ 力，力のモーメント，てこの原理について講義し，人体におけるてこの応用例について，国家試験の過去の問題を例に解説する。 ・ 運動の法則に基づく身近な物体の運動，基本的な力学量について説明する。			
授業目標	・ 人体の動作に関係した物理学(ボディ・メカニクス等)の基本となる原理・法則を理解し，説明できる。 ・ 科学的のものの見方・考え方を身につけ，臨床に応用できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	§ 1. イントロダクション ○物理量と単位			
2	§ 2. 力と運動 1. 力のつりあい (1)力の種類 (2)力の表し方 (3)力の合成			力の合成
3	(4)力の分解 (5)力のつりあい 2. 力のモーメントのつりあい (1)力のモーメント			力の分解
4	(2)力のモーメントのつりあい (3)てこ ①てこの使い方 ②てこの種類			国試問題 てこの原理
5	③てこの応用 道具，人体			国試問題
6	滑車，輪軸 (4)重心と安定			
7	重心，人の重心，安定な姿勢 (5)摩擦力			国試問題
8	3. 物体の運動 (1)運動のいろいろ (2)運動の表し方			
9	(3)物体の運動 (4)重力			
10	4. その他の力学量 (1)仕事 (2)エネルギー (3)仕事率 (4)力積と運動量			国試問題
11	§ 3. 熱と温度： (1)温度目盛り			
12	(2)熱の伝わり方 (3)温度の測定			
13	実験の説明と実験 (グループ毎に協力して実験を行う。)			実験レポート
14	実験のまとめと試験の注意			
15	期末試験			
備考				
教員の実務経験		宮崎大学教育学部 理科教育（物理学） 教授		
実務経験を活かした教育内容		大学での物理教育の経験を活かし，人体の動作に関係した物理学を中心に教育するとともに，実験を実施することにより，体験を通した理解とグループ活動を通したコミュニケーション力を育てる。		

授業名	外国語	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	15（8）	1
担当講師	武方 壮一		授業形態	必須/選択
			講義	必須
教科書	・授業時に配布する。 （単語問題・文法問題・英文問題・リスニング問題・英作文問題）		成績評価	
参考書	・特になし。 （必要に応じて授業において指示する。）		・試験(60%) 授業における活動(40%) （欠席1回につき3点減点、遅刻・早退は1回2点減点） ・60点以上を合格とする	
授業概要	・語彙・文法・リーディング・リスニングについて、英語運用能力の向上を目指す。 語彙、文法の学習については事前学習を課す。リーディングおよびリスニング学習はグループ学習により、自己の理解と他者の解釈について意見交換を行いながら解を見出して行く。英作文は日常の話題を英語で表現する学習を取り入れる。			
授業目標	・語彙力（語彙 4,000 語レベル以上）と文法力（英文法の基本事項の理解）を向上させる。 ・英文読解力（正しい解釈と読解速度）を向上させる。 ・リスニング力を向上させる。 ・基本的な英文（日常の話題）を書いて表現できるようになる。			
授業内容				
回数	内容			課題等
1	テーマ：講義の概要の説明 具体的内容：レベル診断テスト 小目標：語彙力・文法力・読解力を身につける学習方法の理解			語彙、文法学習
2	テーマ：語彙力・文法力・読解力を身につけるための学習 具体的内容：語彙(200 語)・文法小テスト、読解・リスニング（グループ学習） 小目標：語彙力・文法力・読解力を身につける。			
3	テーマ：語彙力・文法力・読解力・リスニング力を身につけるための学習 具体的内容：語彙(400 語)・文法小テスト、読解・リスニング（グループ学習） 小目標：語彙力・文法力・読解力・リスニング力を身につける。			語彙、文法学習 作文
4	テーマ：語彙力・文法力・読解力・リスニング力を身につけるための学習 具体的内容：語彙(600 語)・文法小テスト、読解・リスニング（グループ学習） 小目標：語彙力・文法力・読解力・リスニング力を身につける。			語彙、文法学習 作文
5	テーマ：語彙力・文法力・読解力・リスニング力を身につけるための学習 具体的内容：語彙(800 語)・文法小テスト、読解・リスニング（グループ学習） 小目標：語彙力・文法力・読解力・リスニング力を身につける。			語彙、文法学習 作文
6	テーマ：語彙力・文法力・読解力・リスニング力を身につけるための学習 具体的内容：語彙(1000 語)・文法小テスト、読解・リスニング（グループ学習） 小目標：語彙力・文法力・読解力・リスニング力を身につける。			語彙、文法学習 作文
7	テーマ：語彙力・文法力・読解力・リスニング力を身につけるための学習 具体的内容：語彙力(まとめ)・文法力小テスト(まとめ)、読解力（まとめ） 小目標：語彙・文法・読解・リスニングの学習をまとめる。			語彙、文法学習 作文
8	試験：語彙・文法・読解力・リスニング力の到達度を測る。			
備考				
教員の実務経験		宮崎大学 教育・学生支援センター 教授		
実務経験を活かした教育内容		教養教育の英語を担当した経験に基づき、身につく教材作成、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を取り入れた授業を実践する。		

授業名	医学用語	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	15（8）	1
担当講師	村野 信之（理学療法学科学科長）	授業形態	必須/選択	
		講義	必須	
教科書	・なし ・随時、講義資料を配布	成績評価		
参考書		・筆記試験 70 点 課題レポートなどの提出物 30 点（100 点） ・60 点以上を合格とする		
授業概要	・リハビリテーション医学用語を中心に解説し、専門職として臨床や研究の場で活用出来る用語（医学英語含む）について学ぶ。			
授業目標	・臨床の場や理学療法士（PT）が業務上汎用する医学用語や語句、略語（英単語含む）の意味を理解することができる。 ・医療人・専門職として臨床や研究の場で活用出来る基礎用語について学び意味を理解することができる。			
授業内容				
回数	内容			課題等
1	PT の現場で利用する医学用語①（リハビリテーションに関する用語）			・内容・講義方法は変更する場合があります。
2	PT の現場で利用する医学用語②（人体に関する用語 1）			
3	PT の現場で利用する医学用語③（人体に関する用語 2）			
4	PT の現場で利用する医学用語④（疾患に関する用語 1）			
5	PT の現場で利用する医学用語⑤（疾患に関する用語 2）			
6	PT の現場で利用する医学用語⑥（業務・カルテに関する用語 1）			
7	PT の現場で利用する医学用語⑦（業務・カルテに関する用語 2）			
8	定期試験			
備考				
教員の実務経験		（臨床経験年） 村野 信之：臨床経験 14 年（ICU・SCU・急性期・回復期・維持期）		
実務経験を活かした教育内容		医療人・専門職として臨床や研究の場で活用出来る用語について学び意味を理解することができる。		

授業名	保健体育	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	児玉孝文		授業形態	必須/選択
			講義・実技	必須
教科書	なし		成績評価	
			・平常点とレポートによる採点	
参考書			・60 点以上で合格	
授業概要	・各自好みのスポーツ種目を選択して実施する複数種目同時進行型の実技授業。 ・受講者の体力や性別、技能レベルの多様性を前提とするゲームを中心とした活動を行い、体育委員やスポーツ経験者がインリーダーとなって、担当教員とともに指導に当たる。			
授業目標	① 生涯にわたり、生活の中にスポーツ・運動を取り入れる態度の形成や価値の認識など生涯学習力が向上できる。 ② リハビリの指導過程で有用と思われるスポーツ・レクリエーションの実践力や指導力が向上できる。 ③ 授業を通して社会性や思いやり、コミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップとフォロアーシップなどが向上できる。 ④ クラスに一体感が生まれるような相互性の高い授業を目指す。そして何よりも、本実技が学院生活全般への活力となること。 ⑤ コロナ禍をはじめとした未曾有の事態等による社会情勢が変化するなかで、授業を通して身体性を伴う活動（学習や仕事）の必要性和重要性を再認識する。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	オリエンテーション：自己紹介、講義「身体とコミュニケーション」			随時連絡
2	オリエンテーション（体育館）：準備、後始末方法、実技決定方法			〃
3	各種目ゲーム、			〃
4	各種目ゲーム、			〃
5	各種目ゲーム			〃
6	各種目ゲーム他の種目へのチャレンジ			〃
7	各種目ゲーム、			〃
8	各種目ゲーム			〃
9	各種ゲーム、他種目へのチャレンジ			〃
10	各種ゲーム			〃
11	各種ゲーム			〃
12	各種ゲーム、他種目へのチャレンジ			〃
13	各種ゲーム			〃
14	各種ゲーム、課題の出題			〃
15	まとめ、課題の提出（レポート）			〃
備考				
教員の実務経験	文化庁・文部科学省「芸術家派遣事業」 派遣芸術家 独立行政法人航空大学校 非常勤講師 担当講義：体育 宮崎公立大学 非常勤講師 担当講義：スポーツ・健康科学実習			
実務経験を活かした教育内容	スポーツ・運動を通し生活・社会の中での価値観や認識など身に付け実践力・指導力また生涯学修習力を育てていく。			

授業名	社会の理解	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	15（8）	1
担当講師	大寺 健一郎（理学療法学科 専任教員）		授業形態	必須/選択
			講義	必須
教科書	配布プリント	成績評価 ・ レポート 20% ・ SST ホームワーク 30% ・ 出席点 50% ・ 60 点以上で合格とする		
参考書	なし			
授業概要	1. 科学的・論理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動する能力を培う。 2. 生命倫理や人の尊厳を幅広く理解する。 3. 国際化及び情報化社会に対応できる能力を培う。 4. 患者・利用者等との良好な人間関係の構築を目的に、人間関係論、コミュニケーション論等を学ぶ。			
授業目標	1. 理学療法士としてのキャリア意識や、科学的視点を持つことができる。 2. 生命倫理や人の尊厳についての知識を持ち、自分の考えを示すことができる。 3. 理学療法に関する情報を、海外も含めて幅広く収集・吟味し、活用することができる。 4. 理学療法士としてのソーシャルスキルを身に付け、実践することができる。			
授業内容				
回数	内容		準備学習・課題等	
1	情報化社会と情報リテラシーについて		・ 資料や課題は紙ファイルを準備してまとめて管理すること。最終的にすべて提出し評価を受ける。 ・ 講義内容についての簡単なレポートを課すことがある。 ・ SST に関するホームワークを実践してもらう。	
2	Google Workspace の基本的な使い方について			
3	キャリアについて			
4	再生医療と終末期医療について			
5	科学的思考と研究について（FINER と PICO）			
6	研究の実際（海外文献検索を含む）			
7	人間関係とコミュニケーションについて			
8	ハラスメントについて			
1	ソーシャルスキルと ソーシャルスキルトレーニング（social skill training:SST）について			
2	SST セッション① 言葉以外のコミュニケーション			
3	SST セッション② 会話を始める			
4	SST セッション③ 上手な話の聞き方			
5	SST セッション④ あたたかい言葉かけ			
6	SST セッション⑤ 感謝の気持ちを伝える			
7	SST セッション⑥ 自分の思いを伝える			
8	SST セッション⑦ 謝る			
1	SST セッション⑧ 怒りをコントロールする			
備考 SST のホームワークは必ず実践して記録を提出すること。				
教員の実務経験		理学療法士としての臨床経験 13 年 教育学修士（教育臨床心理） 認定理学療法士（臨床教育）		
実務経験を活かした教育内容		ソーシャルスキルは、理学療法士にとって大切なスキルです。そのトレーニングである SST の技法を実際に取り入れて、このスキルを生活や臨床の中で実践できるように練習していきます。		

授業名	解剖学Ⅰ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	90（45）	3
担当講師	高橋 伸育	授業形態		必須/選択
		講義		必須
教科書	・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学（廣川書店） ・系看 専門基礎「解剖生理学」（医学書院）	成績評価 ・筆記試験（100 点） ・60 点以上を合格とする		
参考書	・プロメテウス「解剖学コアアトラス」（医学書院） ・「カラー人体解剖学」（西村書店）			
授業概要	・本講では人体各臓器の構造と機能について理解を深め、作業療法習得の基盤を築く。また、解剖学標本示説実習では教科書からは学び得ない人体の精緻な構造に直接触れながら、生命の尊厳や医の倫理について学ぶ。			
授業目標	・人体を構成する運動器および神経系の構造と機能を理解することができる。			
授業内容				
回数	内容		課題等	
1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12 13・14 15・16 17・18 19・20 21・22 23・24 25・26 27・28 29・30 31・32 33・34 35・36 37・38 39・40 41・42 43・44 45	骨学総論 頭蓋と脊柱と胸郭 上肢・上肢帯 下肢・下肢帯 骨学総括 関節学総論・頭蓋と脊柱の関節 関節学各論：上肢の連結 関節学各論：下肢の連結 関節学総括・筋学総論 筋学各論：頭頸部と体幹 筋学各論：上肢の筋 筋学各論：下肢の筋 筋学総括 神経総論・脳総論・脳血管・脳室・脳脊髄液 大脳（皮質・髄質・辺縁系） 間脳・脳幹・小脳 脊髄・神経伝導路 神経総括 1 脳神経・自律神経 脊髄神経 1（総論・頸神経） 脊髄神経 2（胸神経・腰神経叢・仙骨神経叢） 神経総括 2 期末試験		指定された教科書を まず一読しておくこと 講義の進行に応じて 適宜、予習・復習問題 等を課する。	
備考				
教員の実務経験		宮崎大学医学部解剖学講座 超微形態科学分野 准教授		
実務経験を活かした 教育内容		より理解が深まるように臨床に沿った内容の講義を行う。		

授業名	解剖学Ⅱ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	90（45）	3
担当講師	石塚 匠	授業形態		必須/選択
		講義		必須
教科書	・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学（廣川書店） ・系看 専門基礎「解剖生理学」（医学書院）	成績評価 ・筆記試験（期末試験 100 点） ・60 点以上を合格とする		
参考書	・「カラー人体解剖学」（西村書店） ・プロメテウス「解剖学コアアトラス」（医学書院）			
授業概要	・本講では人体各臓器の構造と機能について理解を深め、理学療法・作業療法習得の基盤を築く。 また、解剖学標本示説実習では教科書からは学び得ない人体の精緻な構造に直接触れながら、生命の尊厳や医の倫理について学ぶ。			
授業目標	・解剖学（および組織学）を通じて人体を構成する各器官系の構造・機能を理解することができる。			
授業内容				
回数	内容		課題等	
1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12 13・14 15・16 17・18 19・20 21・22 23・24 25・26 27・28 29・30 31・32 33・34 35・36 37・38 39・40 41・42 43・44 45	人体の基本構造 細胞と組織 基礎知識 血液 心臓 総括① 脈管① 脈管② 呼吸器系 総括② 上部消化器 下部消化器 肝胆膵 免疫系 腎・泌尿器 内分泌 生殖器系① 生殖器系② 総括③ 感覚器系① 感覚器系② 総括④ 定期試験		指定された教科書を まず一読しておくこと 講義の進行に応じて 適宜、予習・復習問題 等を課する。	
備考				
教員の実務経験		石塚 匠：宮崎大学医学部解剖学講座組織細胞化学分野 助教		
実務経験を活かした 教育内容		医学部解剖学教育を担当する医師の立場から、診療を念頭においた実践的解剖学知識の理解を促していく。		

授業名	生理学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	90（45）	3
担当講師	福島 剛		授業形態	必須/選択
			講義	必須
教科書	・系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院）		成績評価	
参考書	・標準生理学 第9版		・筆記試験およびレポートなど提出物の評価 100点 ・60点以上の点数で合格	
授業概要	・医療技術者にとって基礎となる生理学について、教科書を用いてわかりやすく解説する			
授業目標	・人体の生理学的事項を学ぶ ・種々の病態・疾病を学び理解するための基礎的知識を身につける			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識：A			・該当する教科書の部分を読んで予習を行う ・内容のアルファベット表記は、教科書の項目に準じる
2	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識：B			
3	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識：C			
4	第2章 栄養の消化と吸収：A			
5	第2章 栄養の消化と吸収：B			
6	第2章 栄養の消化と吸収：C			
7	第2章 栄養の消化と吸収：D			
8	第3章 呼吸と血液のはたらき：A			
9	第3章 呼吸と血液のはたらき：B			
10	第3章 呼吸と血液のはたらき：C			
11	第4章 血液の循環とその調節：A			
12	第4章 血液の循環とその調節：B			
13	第4章 血液の循環とその調節：C			
14	第4章 血液の循環とその調節：D			
15	第4章 血液の循環とその調節：E			
16	第4章 血液の循環とその調節：F			
17	第4章 血液の循環とその調節：G			
18	第5章 体液の調節と尿の生成：A			
19	第5章 体液の調節と尿の生成：B			
20	第5章 体液の調節と尿の生成：C			
21	第5章 体液の調節と尿の生成：D			
22	第6章 内臓機能の調節：A			
23	第6章 内臓機能の調節：B			
24	第6章 内臓機能の調節：C			
25	第6章 内臓機能の調節：D			
26	第6章 内臓機能の調節：E			
27	第7章 からだの支持と運動：A、B			
28	第7章 からだの支持と運動：C、D			
29	第7章 からだの支持と運動：E			
30	第7章 からだの支持と運動：F			
31	第7章 からだの支持と運動：G、H			
32	第8章 情報の受容と処理：A、B			
33	第8章 情報の受容と処理：C、D			
34	第8章 情報の受容と処理：E、F			
35	第8章 情報の受容と処理：G、H			

36	第 8 章 情報の受容と処理：I、J	
37	第 9 章 外部環境からの防御：A	
38	第 9 章 外部環境からの防御：B	
39	第 9 章 外部環境からの防御：C	
40	第 10 章 生殖・発生と老化のしくみ：A	
41	第 10 章 生殖・発生と老化のしくみ：B	
42	第 10 章 生殖・発生と老化のしくみ：C	
43	第 10 章 生殖・発生と老化のしくみ：D	
44	第 11 章 体表からみた人体の構造	
45	期末試験	
備考		
教員の実務経験		潤和会記念病院 （医師）
実務経験を活かした 教育内容		人体の生理学的事項（種々の病態・疾病を学び理解するための基礎的知識）を学習し、理学療法を実践して行くための知識の理解を促していく。

授業名	運動学Ⅰ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	大寺 健一郎（理学療法学科 専任教員）		授業形態	必須/選択
			講義	必須
教科書	・基礎運動学 第7版（医歯薬出版株式会社）		成績評価	
参考書	・系統看護講座 解剖生理学（医学書院） ・エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床（南江堂）		・筆記試験 100% ・60%以上の点数で合格 *課題については部分点あり	
授業概要	・将来、理学療法を行うにあたり、人間の身体活動を人体の形態と機能の相互関係から捉えるだけでなく、運動と生体力学、生理学、生化学、また解剖学及び神経生理学等との関連性について、その基礎を学び正しく理解することを目的とする。			
授業目標	・運動学の領域、歴史、現状と展望、捉え方について説明できる。 ・運動機能の理解に必要な基礎的な生体力学について説明できる。 ・運動機能の理解に必要な生体構造と機能について説明できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	身体の構造と機能：細胞と組織			解剖学・生理学を並行して勉強すること。 随時課題を提示する。
2	身体の構造と機能：運動器の構造と機能・骨関節と靱帯			
3	身体の構造と機能：運動器の構造と機能・骨格筋			
4	身体の構造と機能：神経の構造と機能・末梢神経			
5	身体の構造と機能：神経の構造と機能・シナプス			
6	身体の構造と機能：神経の構造と機能・中枢神経			
7	身体の構造と機能：運動の中枢神経機構・反射			
8	身体の構造と機能：感覚器の構造と機能			
9	身体の構造と機能：呼吸			
10	身体の構造と機能：血液と循環			
11	身体の構造と機能：体温調整・腎臓と酸塩基平衡			
12	身体の構造と機能：運動に対する呼吸循環応答			
13	生体力学の基礎：力学の基礎・身体とてこ			
14	講義のまとめ			
15	単位認定試験			
備考 講義の内容について、定期的に復習すること。復習は最低でも3回行うこと。				
教員の実務経験		理学療法士としての臨床経験 13 年 教育学修士（教育臨床心理） 認定理学療法士（臨床教育）		
実務経験を活かした教育内容		人体の解剖生理学を「運動」というキーワードで整理して説明するとともに、臨床で実際に用いられる評価や治療に応用できる運動学的思考を教授する。		

授業名	運動学Ⅱ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	60（30）	2
担当講師	長友 典子（理学療法学科 専任教員）	授業形態		必須/選択
		講義、簡単な実技		必須
教科書	・基礎運動学 第7版 ・エッセンシャルキネシオロジー，南江堂	成績評価 ・筆記試験（100点） ・60点以上合格 ※すべてのレポート課題の提出を必須とする。		
参考書	・プロメテウス解剖学コアアトラス（医学書院）			
授業概要	・四肢・体幹の運動に関連する機能解剖学と正常な運動機能および運動の力学的特性について学ぶ ・運動障害を観察・分析する能力に結びつく基礎的知識について学ぶ			
授業目標	・上肢・下肢・体幹（顔面機能を含む）の筋学および骨学を基礎にして運動学的特性について説明することができる。 ・運動学における正常な運動機能を理解し、実際に動作を実施できる。 ・機能解剖学から臨床運動学への応用基礎とすることで、実習等で汎用できる知識へと繋げることができる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	運動学の概要：基礎的な機能解剖学について学ぶ			※学習効果の向上を目的として、復習は欠かさないこと。 ※復習として課題レポートを課す。 ※数回小テストを実施する。 ①基礎テスト（骨・関節・筋中心）、 ②確認テスト（単元毎）
2	上肢帯と上肢の運動の概要について学ぶ			
3	上肢帯と肩の運動①：関節と靱帯について学ぶ			
4	上肢帯と肩の運動②：上肢帯と関節の動きについて学ぶ			
5	上肢帯と肩の運動③：上肢帯、肩関節の筋について学ぶ			
6	肘関節と前腕の運動の概要について学ぶ			
7	手関節と手の運動①：関節と靱帯、手関節と手の筋について学ぶ			
8	手関節と手の運動②：手のアーチ、手の変形について学ぶ			
9	体幹の運動の概要について学ぶ			
10	頸椎の運動について学ぶ			
11	胸椎と胸郭の運動について学ぶ			
12	腰椎の運動について学ぶ			
13	上肢帯・体幹のまとめ			
14	下肢帯と下肢の運動の概要について学ぶ			
15	下肢帯と股関節の運動①：関節と靱帯について学ぶ			
16	下肢帯と股関節の運動②：関節の動きについて学ぶ			
17	下肢帯と股関節の運動③：股関節の筋について学ぶ			
18	膝関節の運動①：関節と靱帯について学ぶ			
19	膝関節の運動②：関節の動きについて学ぶ			
20	膝関節の運動③：膝関節の筋について学ぶ			
21	足関節と足の運動①：関節と靱帯について学ぶ			
22	足関節と足の運動②：関節の動きについて学ぶ			
23	足関節と足の運動③：足の筋、アーチ、足部の変形について学ぶ			
24	下肢帯のまとめ			
25	姿勢についての概要を学ぶ			

26	歩行についての概要を学ぶ	
27	歩行時における関節・筋の動き及び特徴的な歩行について学ぶ	
28	顔面および頭部の運動について学ぶ	
29	姿勢・歩行・顔面および頭部のまとめ	
30	筆記試験	
備考	テキストとは別に資料を配布する。教科書を用いて、解剖学と関連付けて復習しておくこと。また、復習の一環として課題レポートを課し、すべての課題レポートの提出を必須とする。講義の中で複数回、基礎テスト(骨・関節・筋)及び確認テスト(各单元ごと)を実施する。	
教員の実務経験	理学療法士としての臨床経験 11 年 (急性期、回復期、生活期 (外来、通所リハビリ、訪問リハビリ)) 認定理学療法士 (運動器) 宮崎県スポーツ協会公認 AT(アスレティックトレーナー) 日本パラスポーツ協会公認 中級パラスポーツ指導員 日本パラスポーツ協会 パラスポーツトレーナー	
実務経験を活かした 教育内容	基礎的な運動学の知識習得だけではなく、簡単な実技も実施しながら解剖学との繋がりや臨床でみられる症状も含めた演習も行う。	

授業名	人間発達学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	大寺 健一郎（理学療法学科 専任教員）	授業形態	必須/選択	
		講義	必須	
教科書	・ Crosslink basic リハビリテーションテキスト 人間発達学（メジカルビュー社）	成績評価 ・ 筆記試験 100%		
参考書	・ シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第 4 版 （南江堂）			
授業概要	・ 主に子どもの発達概念や区分、各年代の特性や評価方法などを学ぶ。 ・ 小児の理学療法に関わる際の基本的知識や概念について学ぶ。			
授業目標	・ 人間発達の基礎を学び、臨床に生かせる知識を修得する。 ・ 人間発達の区分や特性、その評価方法を学び、総合的に理解する。 ・ 小児の理学療法に応用する知識を身につける。			
授 業 内 容				
回数	内 容		準備学習・課題等	
1	人間発達学の基礎		・ 随時課題を提示する。	
2	胎児期の発達			
3	運動の発達			
4	認知能力の発達			
5	社会性の発達①			
6	社会性の発達②			
7	情動・愛情の発達			
8	言語の発達			
9	摂食嚥下の発達			
10	遊び・生活能力の発達			
11	道徳性の発達			
12	家族関係の発達			
13	発達の評価			
14	発達の総合的理解・まとめ			
15	単位認定試験			
備 考				
教員の実務経験	理学療法士としての臨床経験 13 年 教育学修士（教育臨床心理） 認定理学療法士（臨床教育）			
実務経験を活かした教育内容	小児の運動発達や心理学的な視点での発達段階を理解するために、できる限り具体的な内容を提供し、理解を促していく。			

授業名	医学概論	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30 時間（15 回）	1
担当講師	外 菌 昭彦（潤和会記念病院 医師）	授業形態		必須/選択
		講義		必須
教科書	なし	成績評価 定期試験 60 点以上で合格。再試験を行う場合がある。講義中の小テスト・発表なども評価に加味する。		
参考書	講師作成資料（講義ごとに配布）			
授業概要	リハビリテーション専門職に必要な医療全般の基礎知識について学ぶ。また、将来医療現場で直面した課題を解決していくための考え方についても学習する。			
授業目標	医療におけるサイエンス以外の様々な側面を知り、リハビリテーション従事者として必要な社会的・倫理的知識や問題意識を身につけることができる。			
授業内容				
回数	内容			課題等
1	医学概論 -医療とは- 医の倫理・患者の権利 他の職種について / 様々な医療施設について チーム医療 / 患者情報のまとめ方 ICF 分類に基づく患者のとらえ方（グループワーク） 介護保険制度など 生活習慣病 脳卒中和リハビリテーション がんとリハビリテーション 感染症の歴史 老年医学（高齢者医療） ADL について 医学教育とは / 研究をしよう 医療安全 / 医療と法律 定期試験 * 上記の講義内容が前後したり、他の内容に変更することがある。			・ 講義ではグループワークなど課題への取り組みも予定。
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
備考				
教員の実務経験		潤和会記念病院リハビリテーション科医師 医学生・看護学生・理学療法学科の学生への教員経験あり		
実務経験を活かした教育内容		上記の講義内容の多くが実地経験に基づかれている。		

授業名	病理学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	石原 明		授業形態	必須/選択
講義			必須	
教科書	・ カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ）		成績評価	
参考書			・ 筆記試験 100 点 ・ 60 点以上の点数で合格	
授業概要	・ 解剖・生理学をふまえて、病気のしくみを理解する。			
授業目標	・ 病理学を学び、リハビリテーション、介護福祉の専門分野に役立てられる知識を理解し、説明できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	総論 1：病理学の領域 病理検査			
2	総論 2：細胞・組織とその障害、再生と修復			
3	総論 3：感染症			
4	総論 4：炎症、免疫とアレルギー			
5	総論 5：循環障害			
6	総論 6：代謝異常			
7	総論 7：腫瘍			
8	総論 8：先天異常、			
9	各論 11：循環器系			
10	各論 12：呼吸器系			
11	各論 14：消化器系			
12	各論 15：血液、内分泌系			
13	各論 17：生殖器系、脳・神経系、			
14	各論 22：運動器系、感覚器系			
15	期末試験			
備考				
教員の実務経験		潤和会記念病院 医師		
実務経験を活かした教育内容		実際の症例から得られた多数の肉眼的、顕微鏡的画像を供覧		

授業名	臨床心理学	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	安東 末廣	授業形態		必須/選択
		講義		必須
教科書	・『生き方支援の心理学』	成績評価		
参考書		・出席状況と授業態度 10%		
		・筆記試験 90%		
		・60%以上の点数で合格		
授業概要	・脳の働きから心や行動を理解する生き方支援の臨床心理学を学ぶ。 ・基礎編と臨床編に分かれ、基礎編では脳の発達過程とその働きなど生き方の創造に関する支援について、臨床編では生き方の危機とその立て直しに関する支援について学ぶ。			
授業目標	・理学療法士としての臨床に生かせる臨床心理学の基礎について理解し、説明できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	臨床心理学の概説 （目的、理解と診断の方法、支援・治療の基礎理論）			・事前に教科書に目を通しておくこと
2	知っておきたい脳の基礎 （脳の働きを支える神経細胞とグリア細胞／6層からなるうすい大脳皮質／注目されるグリア細胞、など）			
3	ライフサイクルと脳や心の発達 （乳幼児期から児童期までの中枢神経系の発達）			
4	生き方を生み出す脳 （パーソナリティの座／“社会脳”の恩恵／ワーキングメモリと注意／ことばとコミュニケーション、など）			
5	生き方を支える脳 （“感情脳”の恩恵／共感の座／モチベーションが高まるしくみ／ストレスとHPA軸、など）			
6	生き方のチャレンジと脳の働き （アタッチメントとマターナル・デプリベーション／いじめとアタッチメント、など）			
7	発達の過程での危機 （自閉スペクトラム症／知的発達症／注意欠如／多動症／限局性学習症、など）			
8	日常生活の中の心の問題 （不安障害／心身症／摂食障害）			
9	心の危機 （統合失調症／うつ病／老人性認知症）			
10	心理アセスメントの方法 （知能検査、性格検査）			

11	早期の支援 (ストレス・マネジメント教育の実際)	
12	早期の支援 (ストレス対処と能力発揮に役立つリラクセーション技法： ソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニング、 アンガーマネジメント)	
13	プロセスの支援およびフォローアップによる支援： (カウンセリングの理論と技法)	
14	プロセスの支援およびフォローアップによる支援 (認知行動療法の理論と技法)	
15	試験	
備考		
教員の実務経験		宮崎大学 名誉教授
実務経験を活かした 教育内容		

授業名	リハビリテーション医学Ⅰ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	田代 学（潤和会記念病院 医師）	授業形態		必須/選択
		講義		必須
教科書	・リハビリテーションビジュアルブック（学研） ・配布資料	成績評価 ・筆記試験 100 点 ・60 点以上を合格とする		
参考書	・必要に応じて他教科書を使用			
授業概要	・リハビリテーション医学に関し、総論においてはリハビリテーションの概念、チーム構成、プロセスの適応、診断・評価の基礎的アプローチについて、各論においては主な疾患の評価表や治療などに関する基本事項について学ぶ。			
授業目標	・リハビリテーション医学・総論の概念を機能障害、能力低下、社会的不利、心理的面的内容について理解することができる。			
授業内容				
回数	内容			課題等
1	リハビリテーション医学の概念について学ぶ。			各講義後は復習すること
2	リハビリテーション医学が対象とする障害について学ぶ。			
3	臨床検査について学ぶ。			
4	リハビリテーション医学の治療について学ぶ。			
5	リハビリテーションの概念について学ぶ			
6	脳血管障害のリハビリテーションについて学ぶ。			
7	運動療法と物理療法について学ぶ。			
8	脊椎・脊損のリハビリテーションについて学ぶ。			
9	歩行・歩行補助具・装具・車椅子について学ぶ。			
10	切断と義肢について学ぶ。			
11	廃用症候群について学ぶ。			
12	関節リウマチについて学ぶ。			
13	高次脳機能障害・認知症のリハビリテーションについて学ぶ。			
14	摂食・嚥下のリハビリテーションについて学ぶ。			
15	試験			
備考				
教員の実務経験		潤和会記念病院 医師		
実務経験を活かした教育内容		在宅医療から病院にて多くの疾患と関わってきた 38 年間の実務経験を活かした講義内容とする		

授業名	リハビリテーション概論Ⅰ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	古瀬 正志（理学療法学科 専任教員）		授業形態	必須/選択
			講義、演習	必須
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第3版 診断と治療社		成績評価	
参考書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法概論 中山書店 ※その他、適時購入テキスト内で指示		筆記試験 100 点 60 点以上を合格	
授業概要	リハビリテーションの幅広い概念と内容、障害とはどういうことであるのか、リハビリテーション実践のためのチームとそこでの理学療法士の役割、主に使用する機器、関係する法令各種、以上を実技演習など交えて講義する			
授業目標	本質的なリハビリテーションや障害の意味を理解し、リハビリテーション専門職としてのその実践に向け、また理学療法士としてその役割を果たすべく、自分で考え行動できるための基礎を理解する			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1～4	リハビリテーションの理念 医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方 医学的リハ・職業的リハ・社会的リハ・教育的リハ 保健とリハビリテーション、廃用症候群、誤用症候群 医療安全管理、インフォームドコンセント、個人情報保護			* 事前に該当する範囲のテキストは読んでおくこと * 必要に応じて、事前に下調べを提示する場合あり
5	回復期リハビリテーション、生活期リハビリテーション			* 適宜小テストやレポートを課す場合あり
6	障害の概念の理解①：障害とは、ICD、ICIDH、ICF			
7	障害の概念の理解②：障害受容、心理、防衛機制、コーピング			
8	リハビリテーションチームと役割			
9	医療・社会福祉と法律			
10	地域リハと地域包括ケアシステム			
11	訓練用補助機器：装具、義肢、車椅子、歩行補助具、ロボティクス			
12・13	実技演習：歩行補助具、車椅子			
14	総括・まとめ			
15	試験			
備考	実技演習の際は、指定された実習着・実習靴を着用 実技において、実施にふさわしくない身なりの場合には、欠課扱いとする			
教員の実務経験	理学療法士としての臨床経験 29 年 病院および老人保健施設での回復期・生活期リハ実施と部署管理 医療・介護保険サービス（外来リハ、訪問リハ、通所リハ）含む 介護認定審査員（宮崎東諸県圏域） 介護支援専門員（施設内） 宮崎県県北地域リハビリテーション広域支援センター業務実施と総括 宮崎市住宅改修審査委員			
実務経験を活かした教育内容	リハビリテーションの本質を理解する。その上で、リハビリテーションの実践のためには理学療法のみにも留まることなく多職種および家族を含めた社会への働きかけも重要であること、および退院後の生活というものが多種多様であることを理解し考えることできる力を養う			

授業名	リハビリテーション概論Ⅱ	履修時期	時間数（回数）	単位数	
		1 年	30（15）	1	
担当講師	古瀬 正志（理学療法学科 専任教員）		授業形態	必須/選択	
			講義、演習	必須	
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第3版 診断と治療社		成績評価		
参考書	リハビリテーション概論 永井書店		筆記試験 100 点 60 点以上を合格		
授業概要	理学療法士として必要な評価およびリハビリテーション専門職として関わっていくことになる障害や疾患はどういったものであって、それらに対して、どのようなリハビリテーションをどのように行っていくのか、ということの基本的な内容や考え方、進め方を講義する				
授業目標	リハビリテーションの要である評価の概要の理解、障害や疾患の概要とそのリハビリテーションの実践をそれぞれに対して、その基本的な考え方を修得する				
授業内容					
回数	内容			準備学習・課題等	
1	評価の基本①：機能評価			＊必要に応じて、事前に下調べを提示する場合あり	
2	評価の基本②：能力評価・歩行				
3	障害別リハビリテーションの実践① 関節可動域、筋力増強			＊適宜小テストやレポートを課す場合あり	
4	障害別リハビリテーションの実践② ニューロリハ、運動学習、歩行練習				
5	障害別リハビリテーションの実践③ 失語症と高次脳機能障害、摂食嚥下障害、排尿障害			＊座学においても簡単な実技を行うこともあるため、運動できる服装で出席すること	
6	障害別リハビリテーションの実践④：まとめ				
7	疾患別リハビリテーションの実践①：脳卒中、神経変性疾患				
8	疾患別リハビリテーションの実践②：脊髄損傷、外傷性脳損傷、切断				
9	疾患別リハビリテーションの実践③：運動器疾患、関節リウマチ 慢性疼痛				
10	疾患別リハビリテーションの実践④：脳性麻痺、呼吸・循環疾患				
11	疾患別リハビリテーションの実践⑤：悪性腫瘍、生活習慣病				
12	疾患別リハビリテーションの実践⑥：疾患別リハまとめ				
13	実技演習：評価、疾患体験など				
14	総括、まとめ				
15	試験				
備考	実技演習の際は、指定された実習着・実習靴を着用 実技において、実施にふさわしくない身なりの場合には、欠課扱いとする				
教員の実務経験	理学療法士としての臨床経験 29 年 病院および老人保健施設での回復期・生活期リハ実施と部署管理 医療・介護保険サービス（外来リハ、訪問リハ、通所リハ）含む 介護認定審査員（宮崎東諸県圏域） 介護支援専門員（施設内） 宮崎県北地域リハビリテーション広域支援センター業務実施と総括 宮崎市住宅改修審査委員				
実務経験を活かした教育内容	本来の意味でのリハビリテーションの実践のために、病院や地域において各制度や仕組みがどのように行われているのか実際の事例を通して提示する事で、自分のこととして理解し考え実践することができる能力を養う				

授業名	関係職種論	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	・各施設臨床実習指導者、 ・馬場 義行、吉田 敏朗（理学療法学科専任教員）	授業形態		必須/選択
		講義、見学実習		必須
教科書	・講義配布資料	成績評価		
参考書	なし	・出席 60％、レポート課題 20％、発表 20％		
		・60％以上の点数で合格		
授業概要	・保健・医療・福祉と包括的リハビリテーションを構成する職域や関連職種、特にパラメディカルスタッフの職能や理学療法士との関わり方を学ぶ。			
授業目標	・保健・医療・福祉と包括的リハビリテーション、およびその中でのリハビリテーション専門職の役割を説明できる。 ・他部門との情報交換や情報収集など、チームアプローチの基礎を説明できる。 ・地域における理学療法士の役割と、他職種との関わりを説明できる。			
授業内容				
回数	内容		準備学習・課題等	
1	関係職種論概論		各見学実習後概ね 1 週間以内に見学内容に関するレポート提出すること。	
2	講義①：ケースワーカーについて			
3	講義②：ケアマネージャーにつて			
4	講義③：感染予防対策について			
5	講義④：①OT について			
6	②ST について			
7	見学実習オリエンテーション			
8	介護老人福祉施設見学実習①			
9	介護老人福祉施設見学実習②			
10	作業療法士業務見学実習①			
11	作業療法士業務見学実習②			
12	言語聴覚士業務見学実習①			
13	言語聴覚士業務見学実習②			
14	グループワーク			
15	グループ発表			
備考				
教員の実務経験		馬場 義行：理学療法士としての臨床経験 11 年、 臨床経験：集中治療室、急性期、回復期、維持期、介護予防 吉田 敏朗：理学療法士としての臨床経験 20 年 臨床経験：リハビリ専門病院・回復期病棟・急性期一般病棟勤務		
実務経験を活かした教育内容		介護老人福祉施設、作業療法士および言語聴覚士の業務を実際に見学し、介護保険分野における理学療法士の役割や多職種との連携について学ぶ。		

授業名	理学療法管理学Ⅰ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	・馬場 義行（理学療法学科専任教員）	授業形態	必須/選択	
		講義および演習	必須	
教科書	資料配布	成績評価		
参考書	なし	・筆記試験 60 点以上を合格 60 点未満は再試験		
授業概要	・理学療法士を目指す学生として自己管理能力を高める。 ・理学療法士として基盤となる能力や態度について考える。 ・理学療法士を目指すうえで必要な能力についてグループワークで話し合う。			
授業目標	・医療従事者および理学療法士として必要な能力や態度について説明することができる。 ・理学療法士に必要な能力や態度について説明することができる。 ・グループワークを通して、理学療法士に必要な能力を話し合い、書き出し、発表することができる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	理学療法士とは①			
2	理学療法士とは②			
3	理学療法士に必要な基本事項①			
4	理学療法士に必要な基本事項②			
5	理学療法士に必要な基本事項③			
6	人体の基礎①			
7	人体の基礎②			
8	人体の基礎③			
9	理学療法士を目指す学生としての自己管理①			
10	理学療法士を目指す学生としての自己管理②			
11	理学療法士を目指す学生としての自己管理③			
12	理学療法士に必要な接遇とマナー			
13	理学療法士としての仕事観			
14	理学療法士を目指す学生に求められる能力とは			
15	試験			
＊上記の講義内容が前後したり、他の内容に変更することがある。				
備考				
教員の実務経験		馬場義行：理学療法士としての臨床経験 11 年 臨床経験：集中治療室、急性期、回復期、維持期、介護予防 呼吸認定理学療法士、呼吸療法認定士、 心臓リハビリテーション指導士、 宮崎県糖尿病療養指導士、日本糖尿病療養指導士（2015～2020）		
実務経験を活かした教育内容		臨床場面で必要とされるコミュニケーションスキルやキャリア教育を実施する。		

授業名	理学療法概論 I	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	60（30）	2
担当講師	馬場 義行（理学療法学科 専任教員）		授業形態	必須/選択
			講義、実技、実習	必須
教科書	なし 資料配布あり	成績評価		
参考書	・PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第3版 診断と治療社		・筆記試験（80点） ・実技試験（20点） 合せて60点以上を合格とする。	
授業概要	・理学療法士としての必須の資質や基本的な概念 ・潤和会記念病院にて病院見学を実施 ・医療人として必要とされる資質について考える ・理学療法士として必要な全介助での移乗動作の実技練習			
授業目標	・理学療法に関する基本的知識（概要、歴史、法制度）を説明できる。 ・見学実習での学んだ理学療法士の業務、患者の疾患についてまとめることができる。 ・バイオメカニクス・リフティング理論を理解し、移乗動作を実施できるようになる。 ・理学療法学としての研究について説明できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	理学療法の概要			記念病院での見学実習を実施する予定。 病院見学実習後は、デイリーノートとレポートの提出を課す。 （所定の書式あり） 実技試験に向けて、各自、実技練習を実施すること。
2	理学療法の背景①（障害の分類等）			
3	理学療法の背景②（法律）			
4	理学療法の構成			
5	理学療法の主対象			
6	病期・職域別の理学療法			
7	理学療法に必要な知識と実習			
8	病院見学実習準備①			
9	病院見学実習準備②			
10	病院見学実習①：潤和会記念病院での見学実習			
11	病院見学実習②：潤和会記念病院での見学実習			
12	バイオメカニクス総論①：重心、支持基底面、モーメントなど			
13	バイオメカニクス総論②動軸、筋の収縮様式など			
14	バイオメカニクス総論③重心、支持基底面、モーメントなど			
15	リフティング総論			
16	リフティング演習①			
17	リフティング演習②			
18	リフティング演習③			
19	リフティング演習④			
20	リフティング演習および実技試験①			
21	リフティング演習および実技試験②			
22	リフティング演習および実技試験③			
23	リフティング演習および実技試験④			
24	セミナー発表下調べ			
25	セミナー発表参加			
26	バイタルチェック（血圧測定・脈拍測定）①：基礎知識			
27	バイタルチェック（血圧測定・脈拍測定）②：実技講義			
28	理学療法研究法①			
29	理学療法研究法②			
30	総括 最終筆記試験			
備考	テキストとは別に資料を配布する。実技の際は、実習着、実習靴で臨むこと。病院見学に			

については別途説明を行う。

教員の実務経験

馬場義行：理学療法士としての臨床経験 11 年
臨床経験：集中治療室、急性期、回復期、維持期
呼吸認定理学療法士、呼吸療法認定士、
心臓リハビリテーション指導士、
日本糖尿病療養指導士（2015～2020）

実務経験を活かした
教育内容

臨床を想定した実践的な実技講義を含む。中等度介助の患者を想定した移乗動作ができるようになるように臨床的な考え方を踏まえながら指導する。

授業名	理学療法評価法 I	履修時期	時間数 (回数)	単位数
		1 年	30 (15)	1
担当講師	大寺 健一郎 (理学療法学科 専任教員)		授業形態	必須/選択
			講義	必須
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学・理学療法評価学実習 (中山書店)		成績評価 ・筆記試験 80%・レポート 20% ・60%以上の点数で合格	
参考書	PT・OT・ST・ ナースを目指す人のための リハビリテーション総論 改訂第4版 (診断と治療社) リハビリテーションビジュアルブック (Gakken)			
授業概要	● 理学療法評価の基礎 (考え方や手順、SOAP での記録法、) を学習する。 ● 紙面上の模擬患者を通して、全体像の把握や統合と解釈の実際を学習する。			
授業目標	● 理学療法評価の基礎を理解することができる。 ● 患者の全体像や統合と解釈の概念を理解することができる。 ● 評価の結果を SOAP 形式でまとめて記録することができる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	総論・理学療法評価と障害モデル①			講義と演習は同時進行で成果物などを作成する。 課題提出は期限を守ること (守れない場合は減点の対象となる)。
2	総論・理学療法評価と障害モデル①演習			
3	総論・理学療法評価と障害モデル②			
4	総論・理学療法評価と障害モデル②演習			
5	全体像の把握①			
6	全体像の把握①演習			
7	全体像の把握②			
8	全体像の把握②演習			
9	統合と解釈①			
10	統合と解釈①演習			
11	統合と解釈①			
12	統合と解釈①演習			
13	診療録の記録方法 (SOAP)			
14	理学療法評価法 I のまとめ			
15	単位認定試験			
備考 講義の内容について、定期的に復習すること。復習は最低でも 3 回行うこと。				
教員の実務経験		理学療法士としての臨床経験 13 年 教育学修士 (教育臨床心理) 認定理学療法士 (臨床教育)		
実務経験を活かした教育内容		理学療法評価とは何かを学び、一般的な情報や検査・測定、服薬や画像などの情報を統合して解釈し、理学療法のプログラムを作成する流れをつかむ。		

授業名	理学療法評価法Ⅱ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	60（30）	2
担当講師	南正覚 肇（理学療法学科 専任教員）	授業形態		必須/選択
		講義・実技		必須
教科書	・ 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ（中山書店） 理学療法評価学・実習（中山書店） ・ 新・徒手筋力検査法 第10 版（協同医書出版社） ・ 配布資料など		成績評価 ・ 筆記試験 70 点 ・ 実技試験 30 点 （ROM/MMT 各 15 点） 合計 60 点以上を合格とする。	
参考書	・ 基礎運動学 第6 版 補訂（医歯薬出版） ・ PT・OT・ST ための解剖学（廣川書店）			
授業概要	・ 形態測定、関節可動域測定（ROM - T）、筋力検査（MMT）に必要な解剖生理学的知識、測定方法 ・ 検査の臨床的意義を理解し、実技を通して信頼性、再現性のある基本的技術の習得			
授業目標	・ 理学療法における評価の位置づけおよび各検査項目の意義・目的を理解することができる。 ・ 基本的な評価項目（形態測定、関節可動域検査、徒手筋力検査）を学習し、実際に検査が実施できる。			
授業内容				
回数	内容			課題等
1	総論・形態測定：講義中心に理学療法評価・形態測定について学ぶ			※講義の時間以外（講義のない時間、放課後など）を利用し復習を行う必要がある。
2	形態測定：講義中心に形態測定の概要について学ぶ			
3	形態測定：実技中心で形態測定の測定方法について学ぶ			
4	ROM - T：講義中心に検査の意義、制限因子について学ぶ			
5	ROM - T：（実技①）実技中心に上肢の測定方法について学ぶ			
6	ROM - T：（実技②）実技中心に上肢・手指の測定方法について学ぶ			
7	ROM - T：（実技③）実技中心に下肢の測定方法について学ぶ			
8	ROM - T：（実技④）実技中心に下肢の測定方法について学ぶ			
9	ROM - T：（実技⑤）実技中心に頸部・体幹の測定方法について学ぶ			
10	ROM - T：（実技⑥）実技中心に頸部・体幹の測定方法について学ぶ			
11	ROM - T：（実技試験①）			
12	ROM - T：（実技試験②）			
13	MMT：講義中心に筋力検査・MMT について学ぶ			
14	MMT：講義中心に筋力検査・MMT について学ぶ			
15	MMT：（実技①）：上肢帯の筋の測定方法について学ぶ			
16	MMT：（実技②）：上肢の筋の測定方法について学ぶ			
17	MMT：（実技③）：上肢の筋の測定方法について学ぶ			
18	MMT：（実技④）：上肢の筋の測定方法について学ぶ			
19	MMT：（実技⑤）：下肢の筋の測定方法について学ぶ			
20	MMT：（実技⑥）：下肢の筋の測定方法について学ぶ			
21	MMT：（実技⑦）：下肢の筋の測定方法について学ぶ			
22	MMT：（実技⑧）：下肢の筋の測定方法について学ぶ			
23	MMT：（実技⑨）：体幹・頭頸部の筋の測定方法について学ぶ			
24	MMT：（実技⑩）：体幹・頭頸部の筋の測定方法について学ぶ			
25	MMT：（実技⑪）：手指の筋の測定方法について学ぶ			
26	MMT：（実技⑫）：手指の筋の測定方法について学ぶ			
27	MMT：（実技試験①）			
28	MMT：（実技試験②）			
29	全体のまとめ			

30	期末筆記試験	
備考 実技の際は必ず指定された実習服、実習靴で臨むこと		
教員の実務経験	南正覚 肇：理学療法士としての臨床経験 10 年 臨床経験：急性期一般病棟・回復期病棟・訪問リハビリ	
実務経験を活かした 教育内容	基本的な理学療法評価法の知識習得だけでなく、臨床で多く用いられる評価法や、 運動・解剖・生理学との繋がりを意識した演習を行う。	

授業名	運動療法Ⅰ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	宮永 陽亮（介護老人保健施設ひむか苑）		授業形態	必須/選択
			講義・実技	必須
教科書	・理学療法学テキストⅢ 運動療法Ⅰ 第2版		成績評価	
参考書	・基礎運動学 第7版		・筆記試験 100% ・60%以上の点数で合格	
授業概要	・運動療法の基礎知識、各種運動療法の種類や基本的方法を理解できるよう座学を中心に行い、最後は実技にて確認を行う。			
授業目標	・運動療法の歴史・概念・基礎を理解し、運動療法の特徴、障害に対する適応を説明できる。 ・筋力増強運動・筋持久力運動・協調性運動等の目的、適応を説明できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	運動療法の概要および歴史			運動療法基礎Ⅰ・Ⅱは解剖・生理・運動学を事前に学習しておくこと。
2	運動療法の基礎Ⅰ：結合組織・関節の構造と機能			
3	運動療法の基礎Ⅰ：骨格筋の構造と機能・神経系の構造と機能			
4	運動療法の基礎Ⅱ：一般的な組織の修復過程等の病態生理			
5	基本的運動：運動の分類			
6	筋力維持増強運動：目的と適応～基本的事項			
7	筋力維持増強運動：筋力維持増強運動の実際・実技			
8	持久力増強運動：筋持久力概要・分類について			
9	持久力増強運動：筋持久力の評価について			
10	筋力維持・持久力運動：筋力維持・持久力運動の実際・実技			
11	全身調整運動：コンディショニングとリラクセーション			
12	協調性の改善：運動の協調性・適応と目的			
13	運動療法の実技			
14	運動療法の振り返りとまとめ			
15	筆記試験			
	＊試験解説は別日に実施。			
備考 講義の内容について、定期的に復習すること。復習は最低でも3回行うこと。				
教員の実務経験		理学療法士としての臨床経験13年 修士（保健科学） 認定理学療法士（脳卒中）		
実務経験を活かした教育内容		人体の解剖生理学をベースに、運動療法の目的と方法を説明するとともに、臨床で実際に用いられる運動療法の実際を教授する。		

授業名	物理療法Ⅰ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	馬場 義行（理学療法学科 専任教員）	授業形態	必須/選択	
		講義、実技	必須	
教科書	・物理療法学・実習（15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト）	成績評価		
参考書	・物理療法マニュアル（医歯薬出版） ・標準理学療法学 物理療法（医学書院） ・物理療法学テキスト（南江堂）	・筆記試験（100 点） ・60 点以上を合格とする。		
授業概要	・物理療法を実施する際に必要な生理学 ・温熱療法、エネルギー変換療法、寒冷療法の各療法の原理と目的、適応と禁忌 ・温熱療法、エネルギー変換療法、寒冷療法の機器の概要とその操作方法			
授業目標	・温熱療法の生理学的効果、適応と禁忌を説明できる。 ・物理療法（ホットパック、パラフィン、エネルギー変換療法、寒冷療法、超音波療法）の使用方法と適応と禁忌が説明、実際に使用できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	物理療法総論①（定義、分類な、生理学的基礎など）			テキストで該当するところは講義前に目を通すこと。
2	温熱療法概要			
3	温熱療法機器について：ホットパック・パラフィン			
4	実習			
5	寒冷療法概要と実際			実習に関しては、事前に座学で学んだことを復習しておくこと。
6	実習			
7	エネルギー変換療法概要			
8	エネルギー変換療法機器について：極超短波			
9	実習			実習後は実習をまとめた内容の課題レポートあり。
10	光線療法（赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法）			
11	超音波の基礎 ①特性 ②原理 ③目的			
12	超音波の臨床応用 ①適応と生理学的作用 ②禁忌と副作用の病理			
13	超音波 実習 ①使用方法。治療手順			
14	総括			
15	試験			
備考	テキストとは別に資料を配布する。講義後には復習を行うこと。実習の際は必ず実習着用のこと。四肢を中心とした露出をすることがある。			
教員の実務経験	馬場義行：理学療法士としての臨床経験 11 年 臨床経験：集中治療室、急性期、回復期、維持期、介護予防 呼吸認定理学療法士、呼吸療法認定士、心臓リハビリテーション指導士、宮崎県糖尿病療養指導士、日本糖尿病療養指導士（2015～2020）			
実務経験を活かした教育内容	温熱療法機器、エネルギー変換機器、超音波治療器は臨床の場面でも多用される。これらの適応、禁忌をしっかりと理解し、十分なリスク管理の元に患者に施行できるように実技演習を行っていく。			

授業名	物理療法Ⅱ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	30（15）	1
担当講師	古瀬 正志（理学療法学科 専任教員）		授業形態	必須/選択
			講義、演習	必須
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習 中山書店		成績評価	
参考書	物理療法学テキスト 南江堂 PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 羊土社		筆記試験 100 点 60 点以上で合格とする	
授業概要	療法として「水」「電気」「牽引」はどのような目的をもって使用することができるのか、また、その効果はどういったことが得られるのか、ということを教授する。また、実際の臨床場面での運動療法との併用も具体的事例をもって示す。 実技は、グループ単位で全員が機器操作できるように行う。			
授業目標	各治療法の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について学習する。 治療機器の基本的な取扱いを修得する。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	水治療法：概要、物理特性、生理学的作用、分類			＊事前に該当する範囲のテキストは読んでおくこと
2	水治療法：種類、実際			
3	電気刺激療法：総論			
4～6	電気刺激療法：総論・各論 経皮的電気刺激、干渉波電流、微弱電流刺激、神経筋電気刺激、 高電圧パルス電流、ロシアカレント、筋電誘発電気刺激 機能的電気刺激、バイオフィードバック療法			＊必要に応じて、事前に下調べを提示する場合あり
7	牽引療法：概要、効果、種類			＊適宜小テストやレポートを課す場合あり
8	マッサージ療法			
9	物理療法におけるリスク管理			
10	実技演習準備（グループ別役割分担と基本事項まとめ、実技の方法提示）			
11	実技演習			
12	実技演習			
13	実技演習			
14	実技演習			
15	総括 期末試験			
備考	演習時は、実習着・実習靴を着用、実技にふさわしくない身なりの場合は欠課扱いとする グループ学習は、指定したグループ内での役割を分担して実施			
教員の実務経験		理学療法士としての臨床経験 29 年 病院および老人保健施設での回復期・生活期リハ実施と部署管理 医療・介護保険サービス（外来リハ、訪問リハ、通所リハ）含む 介護認定審査員（宮崎東諸県圏域） 介護支援専門員（施設内） 宮崎県県北地域リハビリテーション広域支援センター業務実施と総括 宮崎市住宅改修審査委員		
実務経験を活かした教育内容		物理療法を施行するにあたって、理学療法士はその中心となる必要があることを明示し、一方、現在の臨床において多用されている電気刺激療法の実践を提示することで、より実践的な講義内容とする		

授業名	地域理学療法学 I	履修時期	時間数 (回数)	単位数
		1 年	30 (15)	1
担当講師	吉田 敏朗 (理学療法学科 専任教員)		授業形態	必須/選択
			講義	必須
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 地域理学療法学 中山書店		成績評価	
参考書	・ PT/OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 羊土社 ・ 最新理学療法学講座 地域理学療法学 医歯薬出版社		筆記試験 100 点 60 点以上で合格 再試験あり	
授業概要	地域理学療法学総論から、地域における理学療法士として個別支援のためのまた、地域づくりのための知識と技術を、どのように評価、介入、連携していくのかを学ぶ			
授業目標	地域理学療法の全体像と本質を学び、地域理学療法の実施の担い手となるための基礎を修得する			
授業内容				
回数	内容		準備学習・課題等	
1	地域理学療法および地域リハビリテーションの概念		＊事前に該当する範囲のテキストは読んでおくこと	
2	地域理学療法の視点			
3	地域理学療法と社会情勢			
4	地域理学療法と制度		＊適宜小テストやレポートを課す場合あり	
5	地域理学療法の対象と支援方法			
6	理学療法的支援①：起居動作・良肢位			
7	理学療法的支援②：移乗・移動動作			
8	理学療法的支援③：食事・排泄			
9	理学療法的支援④：社会参加			
10	理学療法的支援⑤：フレイル、ロコモ、サルコペニア			
11	理学療法的支援⑥：認知症、軽度認知障害			
12	理学療法的支援⑦：環境的側面			
13	地域の仕組み、世界の地域リハビリテーション			
14	総括			
15	期末試験			
備考				
教員の実務経験	理学療法士としての臨床経験 20 年 臨床経験：リハビリ専門病院・回復期リハ病棟・急性期一般病棟勤務 介護認定審査員歴：12 年（宮崎市東諸県圏域）			
実務経験を活かした教育内容	これまでの地域リハビリテーション事業への参画や介護保険制度創設当初からの介護認定審査員の経験と職能団体での理学療法士の活動を示すことで、CBR おける基本的な実践的の取組みを教授する。			

授業名	臨床実習 I	履修時期	時間数（回数）	単位数
		1 年	40（20）	1
担当講師	・各施設臨床実習指導者、 ・馬場 義行、吉田 敏朗（理学療法学科専任教員）	授業形態	必須/選択	
		講義、見学実習	必須	
教科書	・講義配布資料	成績評価		
参考書		・レポート課題 100%		
		・60%以上の点数で合格		
		・提出期限を遵守しないと減点		
授業概要	・宮崎県内の老人保健施設（通所リハビリテーションを含む）3 日間、訪問リハビリテーション 2 日間の見学実習を行う。 ・事前にオリエンテーションを実施する。 ・最後にグループワークで実習経験をまとめて発表する。			
授業目標	・介護老人保健施設および訪問リハビリテーション事業所での、理学療法士の業務内容を理解し、他部門との連携並びに役割を説明できる。 ・保健・医療・福祉の包括的リハビリテーションを説明できる。 ・理学療法士という職業について再確認し説明できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	介護老人保健施設見学実習（1 日目）			見学実習では、記録などの提出を課す。
2	介護老人保健施設見学実習（1 日目）			
3	介護老人保健施設見学実習（1 日目）			
4	介護老人保健施設見学実習（1 日目）			
5	介護老人保健施設見学実習（2 日目）			
6	介護老人保健施設見学実習（2 日目）			
7	介護老人保健施設見学実習（2 日目）			
8	介護老人保健施設見学実習（2 日目）			
9	介護老人保健施設見学実習（3 日目）			
10	介護老人保健施設見学実習（3 日目）			
11	介護老人保健施設見学実習（3 日目）			
12	介護老人保健施設見学実習（3 日目）			
13	訪問リハビリテーション見学実習（1 日目）			
14	訪問リハビリテーション見学実習（1 日目）			
15	訪問リハビリテーション見学実習（1 日目）			
16	訪問リハビリテーション見学実習（1 日目）			
17	訪問リハビリテーション見学実習（2 日目）			
18	訪問リハビリテーション見学実習（2 日目）			
19	訪問リハビリテーション見学実習（2 日目）			
20	訪問リハビリテーション見学実習（2 日目）			
備考	実習にあたり介護保険制度および老人保健施設、訪問リハビリテーションについて調べておくこと。			
教員の実務経験	※1 年学担 馬場 義行：理学療法士としての臨床経験 11 年 臨床経験：集中治療室、急性期、回復期、維持期、介護予防 吉田 敏朗：理学療法士としての臨床経験 20 年 臨床経験：リハビリ専門病院・回復期病棟・急性期一般病棟勤務			
実務経験を活かした教育内容	宮崎県内の老人保健施設の見学実習を 3 日間、訪問リハビリテーションの見学実習を 2 日間実施し、各施設の理学療法士の指導の下、各領域で働く理学療法士の役割を理解する。			

